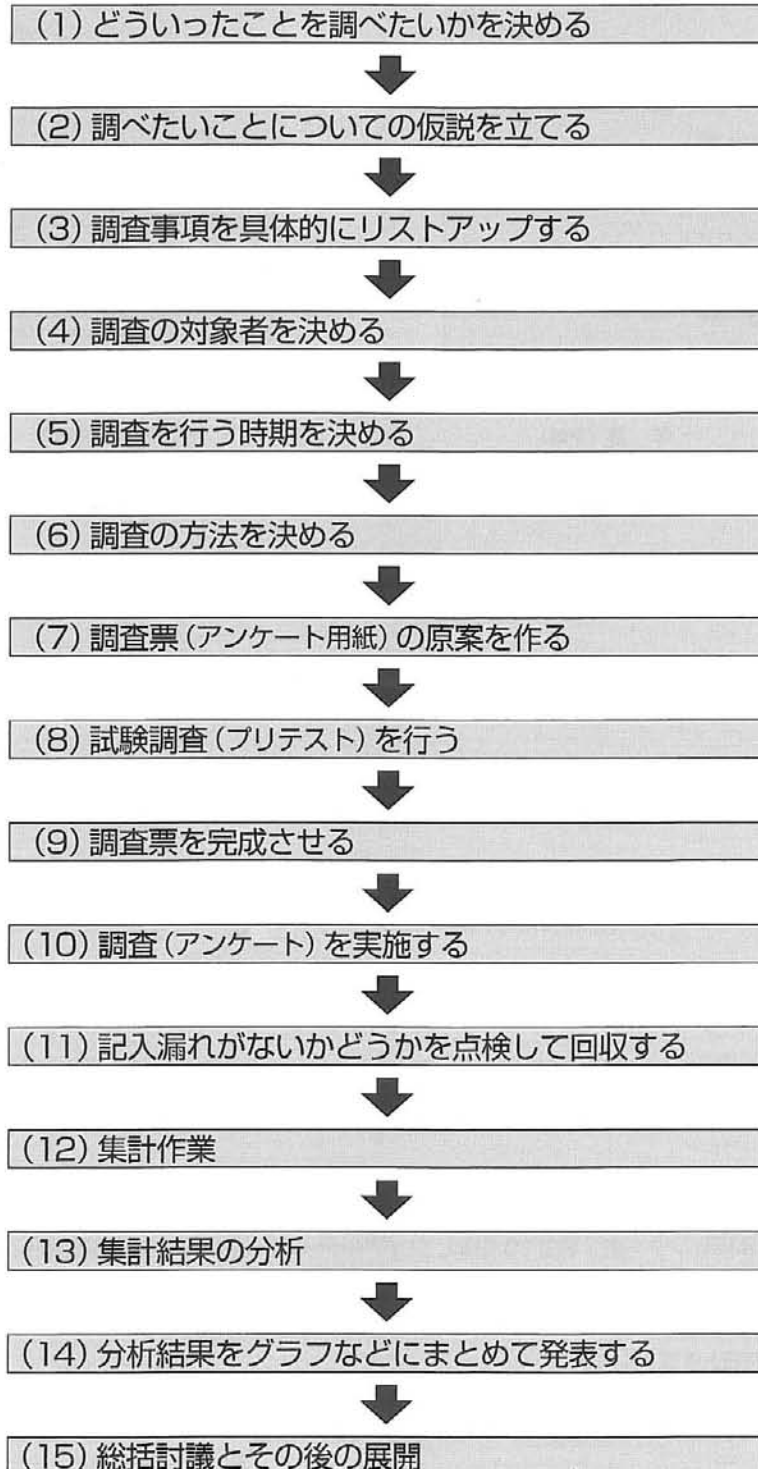


アンケートの実施による情報の収集

いろいろなテーマについて、直接アンケート調査を行ってその結果を情報として知ることができる。以下、その主な作業手順について解説する。

1 主な作業の手順



2 各作業手順についての具体的な説明

(1) どういったことを調べたいかを決める

環境問題についての意識、ボランティア活動、地域の商店街活性化のための方法、クラスの生徒たちの生活時間、友達づきあい、習い事などクラスやグループ全員で討議して調査する主なテーマを決める。その場合、何が問題になっているか、テーマとして取り上げたことの、どういった面に関心があるかについてまで討議を深める。

(2) 調べたいことについての仮説を立てる

(1) で決めたテーマについて、単に関連する事項を羅列しただけの調査とならないように、主に調べたい事柄がどういった点と関連しているかについて、事前に仮説を立てる(例えば、「朝食抜き」が男女間で差があるかどうか、就寝時間と関係があるかどうか、朝自分で起きられるかどうかなど)。

(3) 調査事項を具体的にリストアップする

(1) で決めたテーマと関連して、調べてみたい項目をリストアップする。

その場合、(2) で想定した仮説にかかわる事柄も、漏れなく調査事項に含めるようにする。

(4) 調査の対象者を決める

【調査の対象】

クラス全員、同学年全員、同学年の一部、在学学生全体、在学学生の一部、クラスと同じ学年の他校生、クラスの父母、社会人、催しや会議の出席者など、テーマの内容に即して最もふさわしい調査対象者が誰であるかを考える。

【全数を調べるか、一部だけを選んで調査をするか】

一部だけを選んで調査を行う場合、選ばれた対象者に例えば男女や年齢などについて偏りがあれば、得られた結果は全体を反映したものとはいえない。

そこで、出来るだけ偏りがないように対象者を選ぶために、乱数表による抽出、等間隔サンプリング、多段サンプリング、層別サンプリングといった方法が用いられる。

(5) 調査を行う時期を決める

【調査の時期】

忙しい場合には調査に協力してもらえないことも多いので、一般の人を対象に調査を行う場合には、できるだけ繁忙期や忙しい時間帯を避けて調査を行う必要がある。

(6) 調査の方法を決める**【調査の方法】**

調査方法には、次のようなものが考えられる。

面接調査：面接調査では、調査を行うものが回答者に対して一対一で面接し、調査票に沿って調査事項について、回答者から得た回答を調査票に記入する。

直接、面接することで回答者が周囲の人や家族などの意見に左右されない本人の意見や意識、事柄についての本人の知識などを正確に調べることができる。その反面、留守や多忙などの理由で本人と会って調査ができない場合には、改めて訪問しなければならない。

留め置き調査：調査票を家族の人などに預け、回収日までの間に回答者に記入してもらうよう依頼する。一定期間の後に回収する。

調査票配布時に本人と面接できない場合、あるいは本人が多忙でその時協力が得られなくてもあとで記入してもらえるとという長所がある反面、特に本人の個人的な意識を調べるような場合、回答されているのが本人の意見かどうかわからない。また、面接調査に比べて質問相互間の影響を受けることが大きい。

集合調査：クラスや集会の場で調査に回答してもらうもので、高い回収率が得られる。

その場合、クラス担任や会議の責任者に事前に調査の依頼と時間を割いてもらう交渉を行っておく必要がある。

郵送調査：留め置き調査の一種で、郵便で調査票の配布、回収を行う調査である。広範囲な回答者から回答を求めることができるが、一般に回収率は低い。

電話調査：電話で回答者から直接回答を求める調査である。調査事項の多い調査、複雑な調査などは敬遠され、また、正確な回答は得られない。

(7) 調査票（アンケート用紙）の原案を作る**① 質問文を作る際の注意点（ワーディング）**

- ・ あいまい（多義的）な言葉や、回答者が理解できない特殊な表現（難しい言葉）は避ける。
- ・ 中立的立場に立って質問文を作り、回答を偏らせるような一方のみを強調した誘導的な表現は避ける。
- ・ 質問はテーマと関連した最小限のものにとどめ、質問事項をいたずらに増やさない。

② 二種類の質問パターンと自由記入欄

質問にはあらかじめ番号などのコードをふった回答付質問（プリコード型質問）、記入型質問（アフターコード型質問）と自由記入欄とがある。

・回答付質問

回答肢には二者択一（例：男・女、賛成・反対）、3つ以上の回答肢の中から一つだけ選択（例：賛成・どちらともいえない・反対）、3つ以上の回答肢から2つまであるいはいくつでも選択する複数選択型（例：耐久消費財の保有状況）のものがある。このため、質問文には一つだけ選択、2つまで選択、いくつでも選択可、という選択方法を必ず明示する。

・記入型質問

出生年や年齢などについて、のように枠だけを設けてその中に数字を記入してもらうもので、どのような回答が寄せられるか事前に予想できない場合に、このような記入欄を設けて調査をすることがある。このような場合、集計作業に入る前に、回答結果をコード化（アフターコーディング）する必要がある。

・自由記入欄

自由記入欄については、いくつかのパターンに分類し、「調査回答者の意見」として調査結果の追加資料とする。これは、調査結果の特徴を読み取る際に有益である。

③ 回答の選択肢（回答肢）を作る際の注意点

- ・それぞれの回答肢は重複がなく、しかもすべてを網羅するように回答肢を用意する。
- ・事前に予想していない回答が得られる場合もある。このため、男女など明確なものを除き、必ず「その他（）」として記入欄付きの回答肢を設ける。
- ・回答肢にはあらかじめ番号「1、2、・・・」をふり、該当する回答に○をつけてもらうか、あるいは回答記入のための欄を設けておく。
- ・回答が事前に予想できない質問については、回答肢の代わりに「自由記入欄」を設ける。しかし、自由回答については回答者の記入負担が大きいため、多用すると調査の回収率が低下する。
- ・年齢層や時間帯などを事前に区分して回答肢を設定する場合、後の集計のことを考えて、回答肢は区分しておく。

④ 質問の分岐 —サブ・質問—（sub-question）

ある回答肢を選択した回答者だけに回答を求める場合、「問1-a」「問1-b」といった形で質問を続け、それ以外の回答者には「問1」の回答肢に（→問2へ）と書き、回答者を誘導する。

⑤ ふだんの状態で調査するか、具体的な期日を指定して調査するか

テレビの視聴率や朝食の摂取状況などを調べる場合、ふだんの状態を調べる方法と、具体的に昨日あるいは先週1週間の実態を聞く方法とがある。

期日を指定した質問については、ふだんの状態からズレるケースもあるが、回答者は直近の具体的な記憶に基づいた回答を行う。

⑥ 回答の強度を調べる質問での「中立的」回答肢

質問に対する意識の強度については、しばしば次のような形で調査される。

たとえば、

- | | | | |
|---|--------------|--------------|-------------|
| ア | 1 賛成 | 2 どちらともいえない | 3 反対 |
| イ | 1 大いに賛成 | 2 どちらかといえば賛成 | 3 どちらともいえない |
| | 4 どちらかといえば反対 | 5 全く反対 | |

このような形の質問においては、大半の回答が中立的な「どちらともいえない」に集中する傾向が見られる。

⑦ 質問文の並べ方

- ・一般に男女、年齢といった一般的、基本的な事柄から始める。
- ・関連性のある質問は、できるだけ続けて配置する。
- ・全体的に、回答者が答えやすいような流れとなるように配置する。
- ・難しい質問、回答者が回答を嫌がるような質問は、できるだけ末尾に配置する。

⑧ 調査票のレイアウト

- ・「〇〇に関するアンケート」「〇〇に関する調査」と、調査の意図が分かるような調査の名称を大き目のポイントの活字で冒頭に大書し、その下にクラス、グループ名など調査実施の責任者名を明記する。
- ・質問文と回答肢を一つの組にして表現し、次の質問文との間を1行あける。回答肢群全体を枠で囲んでもよい。
- ・サブ質問 (sub question) については、行の左余白を1、2字分あけ、通常の質問文と区別する。
- ・最後に、「ご協力有難うございました」と調査協力のお礼を述べる。
- ・郵送調査や留め置き調査の場合、調査票の回答締め切り日をアンダーラインをつけたりゴチックで書き、回答者の目につくようにしておく。

(8) 試験調査（プリテスト）を行う

本調査を実施する前に、作成した調査票が適切かどうかの点検のために、試験調査（プリテスト）を実施して、下記の点をチェックする。

- ・ 質問文が回答者に誤って理解されていないか。
- ・ 用意した回答肢に重複した要素がないか、それらが全てを尽くしているか。
- ・ 回答に要する時間は適当であるか。
- ・ 質問の配列順序が適当であるか。

(9) 調査票を完成させる

プリテストの結果から得られた上記の点についての調査票の不具合を修正して、本調査実施用の調査票を完成させる。

(10) 調査（アンケート）を実施する

(6)の「調査の方法」で述べた調査方法の中から、適当と思われるものを選んで調査を実施する。

(11) 記入漏れがないかどうかを点検して回収する

得られた記入済みの調査票について、集計作業に先立ち次の点を点検する。

- ・ 記入漏れがないか。
- ・ 「1つだけ」「2つまで」といった回答の指示が守られているかどうか。

(12) 集計作業

回収した記入済み調査票を手集計あるいはパソコンで集計する。通常は次の二つの集計が行われる。

単純集計：各質問への回答を回答肢ごとの回答数として整理したもので、回答の度数分布を表す。

クロス集計：質問文（あるいは性別・年齢などのフェイス項目）と質問文との間の回答の出方を一つの表にまとめたもの。(例): 男女間の意識の違い、就寝時間と朝食の摂取状況など。

① 手集計

回収された調査票の枚数が100枚程度の場合には、比較的容易に手集計を行うことができる。

単純集計の場合、黒板やノートに各回答肢の番号を書いた下記のような欄を準備し、各調査票で○のついた回答肢のところに順次「正……」を記入し、回答数をカウントする。

回答肢の番号						
1	2	3	4	5	6	……

● クロス集計の場合

		質問 a の回答肢の番号						
		1	2	3	4	5	6	……
質問 b の 回答肢の番号	1							
	2							
	3							
	4							
	⋮							

② パソコンによる集計

(a) 表計算ソフトを使った集計

回収された調査票の枚数が多い場合、回答で選ばれた番号を表計算ソフトのワークシートに入力し、集計する。

入力の際には、1行を1枚の調査票の記入に用いるが、複数選択の設問については、回答した数だけの欄(カラム)を設け、○のついた回答肢には1、無記入には0を入力する。Excelの場合、ピボットテーブルというコマンドを用いて集計を行う。

《注》Excelのマニュアルを参照のこと。

(b) 集計ソフトを使った集計

市販の応用(アプリケーション)ソフトとして、SPSS その他のソフトがある。その利用法については、市販のマニュアルを参照のこと。

(13) 集計結果の分析

【単一選択と複数選択の場合の読み方】

択一設問の場合には全回答者数に対する回答肢の度数は、各回答肢の間の相対的割合を示す。また、2つ以上の回答肢を選択する設問の場合、各回答肢の選択数は、それぞれ回答者全体に対する割合を示す。

(14) 分析結果をグラフなどにまとめて発表する

- ① 最初に設定した仮説を、裏付けるような調査結果となっているかどうかを調べる。
- ② 集計結果をグラフ化する

【単純集計表】

回答肢別回答状況 …… 棒グラフ、柱（立体棒）グラフ

回答内訳（構成比） …… 円グラフ、帯グラフ、パイグラフ

【クロス集計表】

回答肢別回答状況 …… 3次元棒グラフ

- ③ 分析結果のまとめ

調査結果に基づく考察を、発表用として要点（適宜パワーポイント、OHPなども利用）をまとめ、あるいは展示用にパネルにまとめる。

(15) 総括討議とその後の展開

発表会で出されたコメントや分析の中で気がついた事柄などを参考に、実施した調査で成功した点、うまく行かなかった点について、全体討論を行うとともに、調査結果から得られた点を今後どう活かしていくかなども検討するのが重要である。